

# 施策・基本事業評価表

優先度：成果＝中。財源＝中。●道路・水路課

番号	施策名	施策の対象	施策の意図	区分	施策の成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	25年度	26年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
2-3	河川・水路などの維持管理	市民	河川・水路などが機能し、良好な利水・治水が行われている。	成果	河川・水路などの整備状況について満足な市民の割合(%)	72.4	72.1	73.2	73.6	76.7	77.7	78.2	↑	74.3	75.4	80.0	↑	目標達成	<p>前年度からは4.6ポイント上昇し順調である。</p> <p>しかし、近年のゲリラ豪雨による浸水被害等が発生している為、河川・水路の整備への関心は依然として高く、特に下妻、二川校区では不満が25ポイント程で、他の校区よりも高い値となっている。</p> <p>今後、県営での集落基盤整備事業や合理化事業およびクリーク防災事業等の実施を控えており、事業完了に伴い不満は減少傾向になると考えられる。</p> <p>また、羽犬塚校区も不満が21.5ポイントと依然として高い値となっており、これは成24年7月の九州北部豪雨の影響が残っているものと考えられる。</p> <p>水路等の整備状況に対する市民の満足度は順調に上昇しているが、水路等の整備状況に対する重要度も高い値を示しており、今後も水路等の整備は重要な課題と考えられる。</p>	市内の河川・水路等の整備が必要な箇所は未だ多くあり、その中から、緊急性の高いものを選定し、各種補助事業等を活用しながら事業の推進を図っていく。

番号	基本事業名称	基本事業の対象	基本事業の意図	区分	基本事業の成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	25年度	26年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
01	河川・水路などの整備推進と維持管理	河川 農業用水路 その他の水路 ため池	河川や水路などが適切に維持管理されることで、その機能が保全されている。	成果	河川・水路などの機能整備要望への対応率(%)	44.2	48.1	43.7	48.5	54.5	58.0	60.6	50.0	63.9	64.9	70.9	60.0	目標達成	<p>要望書は、平成24年度が76件と九州北部豪雨を受け、多く提出されたが、平成25年度以降は減少傾向にある。</p> <p>要望箇所としては、羽犬塚、松原校区やクリーク地帯の古島、二川校区が特に多い。これは、都市化傾向による既設水路の機能不足やクリークの機能低下が要因となって、水路の整備要望に繋がっているものと考えられる。</p> <p>水路等の機能整備要望への対応率は順調に伸びている。市営単独事業の他、県営の集落基盤整備事業にて、水路整備が実施されている影響は大きいと考えられる。</p>	河川・水路等の整備要望への対応率向上のため、市営単独事業の他、県営事業や補助事業を活用し水路整備に取り組んでいく。
					(参考) 累積の対応件数	23	38	52	82	120	163	206	-	266	307	361	-			
					(参考) 累積の要望件数	52	79	119	169	220	281	340	-	416	473	509	-			
					(参考) 単年度の対応件数	15	15	14	30	38	43	43	-	60	41	54	-			
					(参考) 単年度の要望数	23	27	40	50	51	61	59	-	76	57	36	-			
成果	浸水の不安がない市民の割合(%)	51.1	52.7	51.7	51.5	49.8	53.2	50.8	↑	38.8	42.8	42.1	↑	不調	<p>昨年度より、0.7ポイント下降した。平成24年7月の九州北部豪雨以降、多少ポイントは持ち直しているが、九州北部豪雨以前のアンケート結果と比較すると、ポイントは低い。</p> <p>これは、まだ市民の中で平成24年7月の九州北部豪雨の影響があるものと考えられる。</p>	アンケート結果から、未だ平成24年7月の九州北部豪雨の影響が考えられる。市内の浸水被害箇所を調査し、箇所毎の被害軽減策の工法検討をおこなう。				